



岩見沢市役所 新築完成 1月04日から

身分証だけで証明書発行
「書かない窓口」導入

【岩見沢】市は新庁舎で「行政サービス効率化、高度化」を始める1月4日から、住民票など証明書の発行手続きで、市民の申請書記入を不要とする「書かない窓口」を導入する。「書かない窓口」を導入手続きで、デジタル技術を活用して

バーカードなど身分証明書を窓口で示し、職員が代わりに申請書に入力したデータを確認して署名するだけで済む。対象は住民票や戸籍証明書、印章登録証明書などの3種類の書類。今後は、転入届などへの拡大を想定する。市の検証では、住民票と税証明の発行は従来より4分短縮、入札、転入届の手続きを終えたという。

(浦崎竜馬)

キッズスペースや付帯施設が1階出入口付近の付帯スペース。デジタルサイネージ(電子看板)が設置され、受け付け番号や市内の観光名所などの映像も流れる



拠点一新



4階の議場。従来、36席の議員席を2階席に搬入し、スローリフトで移動できるようユニバーサルデザインを採用。中央には質問席が設けられた

岩見沢市役所 新庁舎内覧会

【岩見沢】完成したばかりの市役所新庁舎で25日、内覧会が行われ、1月4日からの使用を前に多くの市民が新しい建物の内部を見学した。庁舎内に展示される美瑛市出身の彫刻家安田侃さんの彫刻作品「意心帰」の除幕式も行われた。

面積は約1万7000平方メートル。道産木材やれんがを用いた開放的な雰囲気の特徴。除幕式で松野哲市長は「意心帰が市民に愛され、新しい市役所のシンボルとなることを願う」とあいさつ。イタリアからリモート参加した安田侃さんは「思いを込めてこの彫刻に触れてほしい」と話した。(石川実和)



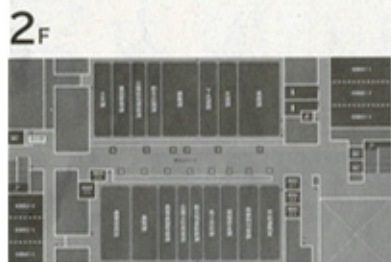
彫刻「意心帰」除幕式



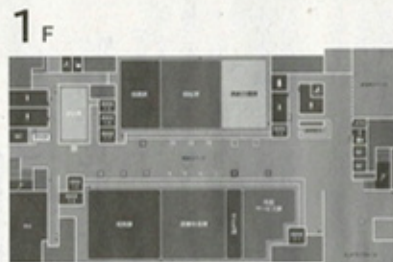
並んで立つ市役所の新庁舎(手前)と現庁舎。1965年から利用してきた現庁舎は今年28日で業務を終え、来年1月から解体。新庁舎は2019年10月に着工し、11月末に完成。総工費は約62億円

安田侃さんの彫刻作品「意心帰」。高さ約1.3メートル、重量約1050kgのホワイトブロンズ製で、1階エントランスホールに設置。「この地の持つ時間とエネルギーは彫刻と共鳴し、見る人の心を写し、触れる人の心に帰る」との意味を込めたという

◆ 岩見沢市役所 新庁舎完成



- 1 市民連絡室
- 2 商業物対策課
- 3 環境保全課
- 4 商工労働課
- 5 観光物産振興課・企業立地推進室
- 6 農業基盤整備課
- 7 農務課
- 8 農業委員会
- 9 農務課
- 10 水道課・下水道課
- 11-12 建築課
- 13 都市計画課・公園緑地環境課
- 14 建設管理課・土木課



- 1 市民サービス課
- 2 子ども課
- 3-6 医療年金課
- 7-9 税務課
- 10-12 高齢介護課
- 13-15 福祉課
- 16 保健課
- 17 会計室
- 多目的スペース
- 売店



- 講堂
- 佛壇席
- 議会事務局
- 委員会室
- テラス



1965年に完成した現庁舎の老朽化に伴い、敷地内での現地建て替えを計画。鉄筋コンクリート造一部鉄骨造、地上4階地下1階建てで、延べ床面積は1万719平方メートル。2019年から改築工事を始め、今年11月に完成した。

新庁舎は、転入出など諸届けに対応する市民サービス課や福祉、税務など、市民の利用が多い窓口を1階に集約。庁舎入口のエントランスホールには安田侃の作品を常設するほか、休憩や市民ギャラリーに使える多目的スペース、総合案内コーナーを設ける。2階は市民連絡室、市長・副市長室や災害対策本部として活用できる会議室も完備。4階には議場と市議会議員控室を設けた。

1月4日から業務が始まる。ユニバーサルデザインを採用したほか、連続7日分の非常用発電設備や飲用水などを確保した災害復旧拠点としての機能も備えた。業務開始を前に1月25日には、1階エントランスホールに常設する芸術家・安田侃氏の彫刻作品の除幕式に続き、午前10時〜午後4時まで市民向けの新庁舎内覧会を行う。

一方、防災対策拠点としては災害時でライフラインが停止しても7日間(168時間)の連続稼働ができるよう、非常用発電機や燃料、飲料水の受水罐なども完備。災害時に伴う浸水対策として、電気室やサーバ室などを3階よりも上に配置し、不活性ガスの消火設備も導入した。

新庁舎が完成し、来年1月からは現在の市庁舎と職員会館・水道庁舎の解体を始めるほか、同3月下旬からは公用車の車庫(鉄骨造2階2639平方メートル、駐車場(同1階36平方メートル)と倉庫(同1階497平方メートル)の新築に着工。23年5月完成を予定している。

室を設けたほか、西向きに市民向けのオープンテラスを設けた。外観はシンプルなデザインだが、図書館や複合施設など、市民に親しまれる施設のデザインや配色なども一体感をあわせ、外壁にレンガ材を採用。支庁広域から上支庁4市(東川町、遠軽町、中央町)の間に、バス停前までの歩道も取り付けた。地中熱を活用した熱交換機方式や10KWの大規模太陽光システムなどで、自然エネルギーも有効活用する。